

令和 8 年 2 月 27 日

株式会社博報堂

特別委員 安藤 雅之

## 委嘱業務完了および実績報告書

資源エネルギー庁「令和 7 年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業（エネルギー教育推進事業）地域におけるエネルギー教育実践事業」における令和 7 年 6 月 13 日に委嘱された内容について、委嘱業務の完了と実績を以下の通りご報告いたします。

## ・委嘱概要

特別委員氏名	安藤 雅之
委嘱期間	令和 7 年 6 月 13 日～令和 8 年 2 月 28 日
実践タイトル	「エネルギー環境教育を推進する教育人材育成のためのプラットフォームの構築」

## ・実施事項

## I. 2025 年 9 月 20 日（土） 13：30～16：45

## ◎第 1 回エネルギー環境教育推進のための教員向けセミナー「実践事例検討交流会」

1. 基調講演【講演①】演題：「日本のエネルギー環境教育の現状と課題」  
（安藤雅之＜常葉大学大学院 教授＞）  
【講演②】演題：「学校現場におけるエネルギー環境教育の実際」  
（田中誉也＜磐田市立城山中学校 教頭＞）
2. 実践事例報告
  - ① 社会科（牧野 照平＜湖西市立岡崎中学校＞）
  - ② 理 科（田中 誉也＜磐田市立城山中学校＞）
  - ③ 特別支援教育（土屋 佳穂＜沼津市立香貫小学校＞）
  - ④ 総合的な学習の時間（岸 宗之＜静岡県総合教育センター＞）
3. 実践事例検討会
4. その他  
「放射線教材」の開発（大多和秀樹＜常葉大学大学院 院生＞）

## II. 2025 年 11 月 22 日（土） 7：00～16：30

## ◎第 2 回エネルギー環境教育推進のための教員向けセミナー

「施設見学—JERA 川越火力発電所視察」

1. 視察目的及び施設概要説明

- (1) 視察目的について (安藤雅之<常葉大学>)
- (2) 施設概要説明 (鈴木里安<静岡市立清水有度第一小学校>)  
(鈴木 智<中部電力株式会社 静岡支店>)

2. 施設見学

- (1) 概要説明
- (2) 発電所構内の見学
  - ① 1・2号機煙突、3・4号系列煙突
  - ② 発電量モニタ
  - ③ 全国火力発電所番付表
  - ④ 3・4号系列及びLNG基地中央制御室
  - ⑥ LNG基地
  - ⑦ 3号系列 (起動装置・発電機・蒸気タービン・ガスタービン・排熱回収ボイラ等のプラント)
- (3) 川越電力館テラ46館内見学

III. 2025年12月13日(土) 13:30~16:45

◎第3回エネルギー環境教育推進のための教員向けセミナー

「エネルギー環境教育推進のための教材・教具の活用及び開発」

1. 講演

演題:「エネルギー環境教育を推進する教材・教具」

若松巧倫氏 (ケニス株式会社 企画部 商品開発グループ 課長)

2. 報告

(1) 授業実践報告 (田原弘之<常葉大学教育学部附属橘小学校>)

(2) 第2回教員向けセミナー「JERA 川越火力発電所」視察報告

岸 宗之 (静岡県総合教育センター 教育主査)

3. 情報提供

演題:「高レベル放射性廃棄物地層処分への関心と理解を深める教材」

川中美侑氏 (原子力発電環境整備機構 (NUMO))

広報部 地域コミュニケーショングループ)

4. 意見交換

IV. 2026年1月31日(土) 13:30~16:50

◎「東海圏・エネルギー環境教育サミット」

1. 基調講演及び質疑応答

演題:「STEAMとSSIの視点から考えるエネルギー環境教育」

郡司賀透氏 (静岡大学教育学領域 准教授)

## 2. 話題提供

「エネルギー政策を取り巻く現状について」

中窪浩美氏（経済産業省中部経済産業局 電源開発調整官）

## 3. 「シンポジウム」

テーマ：「これからのエネルギー環境教育

－エネルギー環境教育を推進する教育人材をどのように育成するか－

コーディネーター：安藤雅之（常葉大学大学院 教授）

パネラー：田原弘之（小学校：常葉大学教育学部附属橘小学校 教頭）

田中誉也（中学校：磐田市立城山中学校 教頭）

萱野貴広氏（日本エネルギー環境教育学会 事務局長）

## 4. サミット宣言

牧野照平（湖西市立岡崎中学校 教諭）

中澤祐介（静岡大学教育学部附属浜松中学校 教諭）

## V. 2026年2月25日（水）

### ◎事業報告書（『新時代のエネルギー環境教育』）の完成・配布

本事業における教員向けセミナー、シンポジウム、「東海圏・エネルギー環境教育サミット」等において報告・発表された事例や地域での優れた実践等を整理し、地域におけるエネルギー環境教育の普及・促進を図るために、「エネルギー環境教育NOW！」「Challenge！エネルギー環境教育」資料編から構成する報告書を作成した。

本書は、本事業に参加した教員、大学院生等を中心に広く配布し、本書を通してさらに「エネルギー環境教育」への関心を高めて頂くとともに、今後の教育実践へつなげて頂けるように、本書を効果的に活用して頂くことを期待している。

### ・成果

◎「エネルギー環境教育」を推進する教員だけでなく、関心を持っている教員等に声がけ等を行い、一堂に会して気軽に好事例を共有したり事例検討等を行ったりする機会を確保することによって、教員自身がまずエネルギー環境教育の必要性を自覚的に認識できるようになるとともに、新たな知見や教育方法等を得る機会とすることもできた。

◎ややもするとエネルギー環境教育の必要性を感じ、使命感をもって実践している教員が実際には孤立したり、新たなプロジェクト等を立ち上げたりすることへの大きな抵抗等を受けたりするケースも散見されていたため、今回のように定期的に学び合う場を設け、実践交流や事例検討、さらには最先端の情報を入手できるような機会（施設見学）を設定することによって、教員同士がつながり、連携・協働した取り組みや、自信をもって教育実践を展開できるようになってきた。

◎エネルギーや環境に関する最新の知識や技術を、セミナーを通して「情報の一元化」が図られ、教員の「教育機会の拡充」を図ることができた。

◎セミナーを通して、有識者（専門家）、教員、さらには高校生、大学生、大学院生、エネルギー関連事業者が交流し、意見を交わしながら学び合える環境を構築することができ、新たな「コミュニティ形成」を図ることができた。

◎施設見学に関して、参加者アンケートからは「見学会に参加をしてとてもよい学びになった」という好意的な声が沢山寄せられた。また、「今日的な課題に対する取り組みの現状や課題を確認」することができ、また「LNGに対する期待や課題について考えるきっかけ」にできたり、「施設見学での成果をどのように教材化していくかということを考える機会」としたりすることができたという声が聞かれた。さらには「今後もこのような視察に参加していきたい」という声が寄せられるとともに、「もっと多くの方に関心をもって参加できるような工夫について検討していきたい」という課題も出された。

◎サミットを通して、持続可能な未来を切り拓く力をもった次世代を担う子供たちの育成に向け、未来への展望と行動指針を示し、共有した。

◎持続可能な社会を構成する力を身に付けるために、教育を通じて「できない」を「できる」に変えていく視点を重視し、未来志向の学びを推進していく方針として、東海地域の産業やエネルギー関連施設等の教育資源を生かし、教員および児童生徒が社会の現場に触れる実感を伴った学びを充実させる。さらに、こうした理念を具体的な教育実践につなげるため、教材開発やカリキュラム構築を進め、エネルギー環境問題を「知る・体験する・考える」学習を組み込みながら、学校、大学、自治体、企業等が立場を越えて連携し、教材や実践の共有、対話を通じた学びのコミュニティを形成していく。そこで、これからのエネルギー環境教育の推進・発展のために「東海圏・エネルギー環境教育サミット」宣言を採択した。

#### ・今後への課題

◎第1回から第3回までのセミナーに参加頂いた教員を軸にして、さらに関心を持っている教員等をはじめ多くの教員に対して、「エネルギー環境教育」とはどのような教育なのかを「知っていただく機会」を設けるとともに、大学・大学院の教員養成段階における方策等を検討する。

◎意欲的、先導的な教員の取り組みを積極的に発信できる機会を創出するとともに、静岡県であれば、静岡エネルギー環境教育研究会等の団体とのコラボレーションを図り、学び合う場を設けるとともに、最先端の情報や学びがいのある機会（講演や演習等）を定期的に開催する。

◎単発的で、一過性の実践や取り組みにしないために、常に実践事例や取り組み結果を共有しあえる環境（例えば、冊子の作成等）を整備し、情報を共有しあい、また教員が気軽に相談したり、協働して取り組んだりすることができる環境整備を行う。

◎教員の準備負担を軽減するために、既存の授業実践や教材を共有する「パッケージ」の提供や、誰でも自由に投稿・閲覧できるオンライン交流サイトの構築が必要となる。

◎東海圏の地域特性を活かし、防災教育や人権教育といった既存の教育課題にエネルギーの視点をエッセンスとして盛り込むことで、無理なく実践を継続できる体制を整えていく。

◎専門家や研究者が構築してきているノウハウや行政やエネルギー関係事業者等とのネットワークを教員へ伝えたり、つなげたりして、大学、企業、自治体などの外部機関と連携を深め、教員が孤立することなく「教えながら学ぶ」ことができる環境（プラットフォーム）を整え、次世代のエネルギー教育を担う人材を育成の方策等をさらに検討していく。

(補足資料)

## 「東海圏・エネルギー環境教育サミット」宣言

私たちは、エネルギー問題という正解のない複雑な問いに対し、「できない」を「できる」に変える、持続可能な未来を切り拓く力を、次世代を担う子どもたちに育むことが使命であると認識しています。

本日、東海地域の教育・産業・行政に携わる私たちが集い、対話を通じて導き出した未来への展望と行動指針を、ここに宣言します。

### 1. 持続可能な社会を構築する力の育成

子どもたちの素朴な疑問を大切に、小さな気づきや柔軟な発想に基づいた「対話の場」を通じて、「こんなこともできる」と、希望の未来を描く力を育みます。

### 2. 現場の熱量に触れる、実感を伴う学びの展開

東海地域の強みを生かし、エネルギー施設や企業現場の最前線に触れる臨地研修を推進し、教員と子どもたちが社会の熱量を肌で感じる、質の高い教育を実践します。

### 3. 理想を形にする教材開発とカリキュラムの構築

「こんなこともできる」という理想を、具体的な教材やカリキュラムとして具現化します。エネルギー問題を「知り、体験し、考える」プロセスを日々の授業に組み込み、子どもたちが社会とのつながりを実感できる確かな学びの機会を提供します。

### 4. 立場を越えた学びのコミュニティづくり

「つなぐ・つながる・つなげる」をキーワードに、学校、大学、自治体、企業等が組織の壁を越えた学びのコミュニティを構築し、教材開発、授業実践の共有や対話を通じて、未来の実践者を育成する環境を整えます。

私たちはこの宣言を、「つながり」を生む大切なきっかけとし、持続可能な未来に向けて、今、この瞬間から、新たな一歩を踏み出すことをここに誓います。

令和8年1月31日

東海圏・エネルギー環境教育サミット 参加者一同